

地域と家庭と学校が一つになって子どもを育む…それが“チーム七小”です！



くさぶえ

福生市立福生第七小学校

令和7年度 学校だより

1月号

福生第七小学校

ホームページ

URL



<https://fussa-7e.hs.fussa.school/>

所在地 福生市北田園一丁目1番地1

発行責任者 校長 菅野 恭子

令和8年1月8日 発行



礼に始まり 礼に終わる

校長 菅野 恭子

新年、明けましておめでとうございます。

本年は、午年の中でも60年に一度の丙午になります。先人の知恵でもありますが、統計的にも太陽や大きな炎のように非常にパワフルな運気とも言われています。新年早々、世界情勢も様々な動きを見せ、1月6日には島根・鳥取県において震度5以上の地震が起こるなど引き続き災害等にも注視が必要な中、ある大学の馬が町中をかっ歩するという微笑ましいニュースもありました。

物事が大きく動き、新しい流れが変わる「節目の年」。子どもたちにとっても大きく飛躍する年となるよう教職員一同取り組んでいきます。

礼に始まり 礼に終わる

これは、「相手を尊重し、感謝と敬意をもって始め、終わりまでその心を忘れずに行う」という礼儀を大切にする考え方で、日本伝統の古武術から発展した武道等で特に重要視されているものです。武道では、稽古や練習をとおして人格形成を目指します。

なぜ、武道では礼儀が必要とされるのか。それは、相手への敬意と感謝を示すことによって心を落ちさせ、精神を統一し、自分自身をコントロールできるからです。武道では、一対一での対戦となります。その際、技や心の未熟さ、乱れが怪我やトラブルの元にもなりかねません。感情的にならずにトラブルを回避するためにも、礼儀を尽くし、技や心をコントロールする必要があります。また、礼を尽くすことで「互いを高め合う道」へと昇華されます。



武道は人格の形成を目指すとあるとおり、この考え方は人としての生き方にも通ずるところがあります。今年度、全校朝会等の様々な機会において、学校で学ぶことの意義について話をしてきました。読み書き・計算等の学びはもちろん、「人とのかかわり方を学ぶ」ことの大切さを話しています。

将来の自分は、今の自分の積み重ねによってできています。大人になったとき、社会で様々な人とかかわりながら生活をする際に必要なことが人としての品格です。そのためにも、互いを尊重し、感謝と敬意をもって接する心が育つように、「礼にはじまり礼に終わる」を意識して日々の生活を送ることが大切であると考えます。

年末年始、日本の伝統文化に触れる機会はありましたでしょうか。日本の伝統や文化に込められている、目には見えない美しさが随所に現れていたと思います。礼儀を一番最初に学ぶ場所は家庭ですが、学校でもこの考え方を大切にしながら過ごしていきます。

2学期の終業式後も、大変嬉しい子どもたちの姿がありました。職員玄関前で子どもたちを見送っていると、「校長先生！2学期も大変お世話になりました。3学期もどうぞ、よろしくお願ひいたします。良いお年を！」と、子どもたちが深々とお辞儀をして帰っていました。3学期も楽しみです。

礼儀には、挨拶や言葉遣い、身だしなみ、態度や振る舞いなどがあり、これらを丁寧に行えることは心の美しさにもつながります。子ども達が美しい言葉を、美しいかかわり方ができるよう、家庭・学校・地域で連携しながら取り組んでいきましょう。

